

STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア®

↓扉の吊込動画はコチラ



施工手順書⑥-1

ヴェトロ(VETRO)

アウトセット片引き戸(上吊)

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.木工事・標準仕様 / ①-2.木工事・準耐火仕様

②クロス・塗り壁工事

③扉・金物の取付

③-1. 片開き戸、親子戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④～⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、物入4枚・6枚開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 片開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、引分け戸

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆりみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

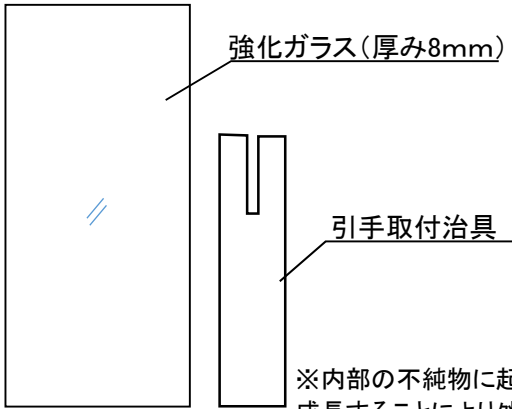
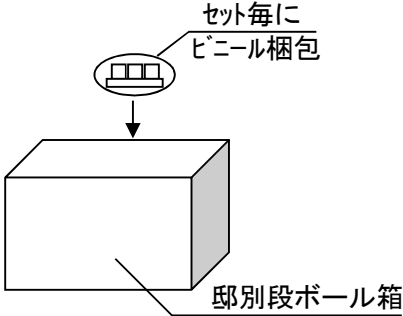
- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

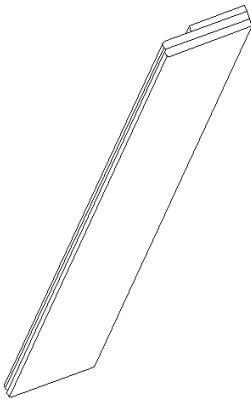
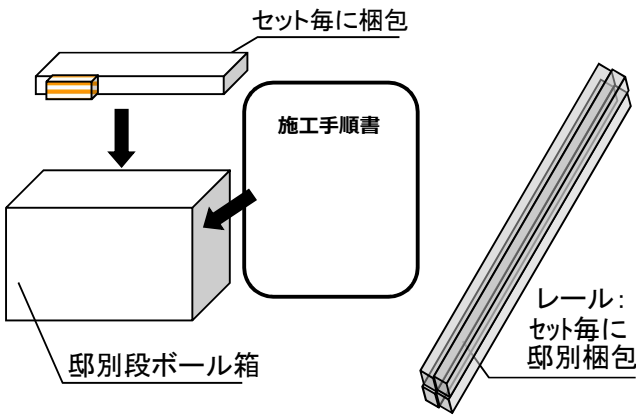
- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□納品形態

扉と同時に納品されるもの

建具	建具金物箱
 強化ガラス(厚み8mm) 引手取付治具 ※内部の不純物に起因するキズが成長することにより外力に関わらずガラスが不意に破壊する恐れがあります。 必ず2人以上で 吊り込みしてください。	 セット毎に ビニール梱包 邸別段ボール箱

下地枠と同時に納品されるもの

下地枠	下地金物箱とレール
	 セット毎に梱包 施工手順書 邸別段ボール箱 レール: セット毎に 邸別梱包

□金物箱の梱包内容

下地金物箱		
名称	写真	数量
上レール・目隠しカバー		1本ずつ
ダンパー本体		2ケ
トリガー・上ストッパー		2ケ
ガラスブラケット		2ケ
カバーキャップ		2ケ（ビス2本付）
クリップ		12ケ
レール取付ビス		20本
隙間シール		1本
ハンガーボルト		2ケ
下ガイド		1ケ（ビス2本付）
トルクレンチセット ※セット内容は次ページ参照		1セット

□金物箱の梱包内容

下地金物箱				
トルクレンチ本体		1ヶ	トルクレンチ ソケット 4mm	 1ヶ
六画 (呼び2・2.5・4)		1ヶ	ヘキサロピュラ LレンチT25	 1ヶ
【その他必要工具】 ・電動ドライバー (φ3キリ・プラス) ・プラスドライバー (1番・2番) ・マイナスドライバー				

建具金物箱		
名称	写真	数量
引手		1セット
ガラスクリーナー		1ヶ
引手取付治具	 ※使用しません	1ヶ

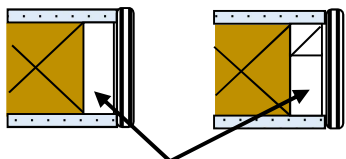
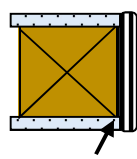
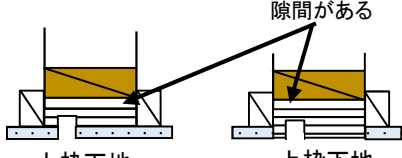
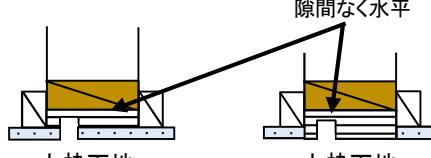
開口部の確認

forステルス枠

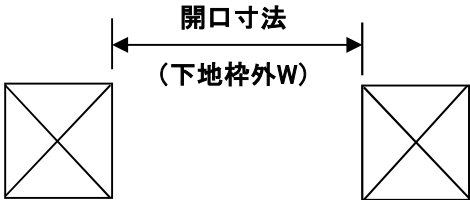
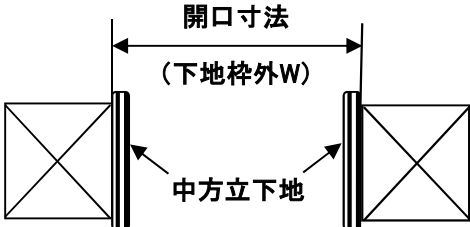
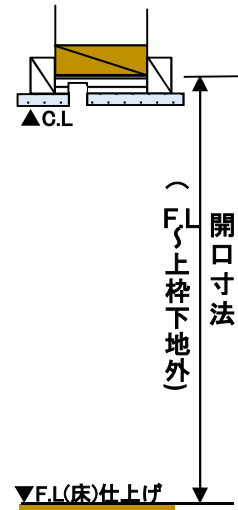
施工手順書2021/9初版

2023/1改訂

開口部(躯体側木下地)の確認

下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。	 中方立 下地 隙間がある	 中方立 下地 隙間なく平滑	下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
	×	○	
	 隙間がある 上枠下地 (天井ボード勝ち) 上枠下地 (上枠勝ち)	 隙間なく水平 上枠下地 (天井ボード勝ち) 上枠下地 (上枠勝ち)	
	×	○	
ポイント	※躯体側の木下地（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。 ※上枠下地が無い納まりの場合でもクロスのヨレ・ヒビを防ぐために木下地は隙間なく平滑に入れてください。		

開口部(寸法)の確認

ポイント	下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。	 	
		【巾寸法】 開口寸法（＝下地枠外W）	高さ寸法の確認
		※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。 ※納まり図の高さ寸法はF.L(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。	

上枠下地

forステルス枠

施工手順書2021/9初版

2023/1改訂

上枠下地の取付【天井高納まり】

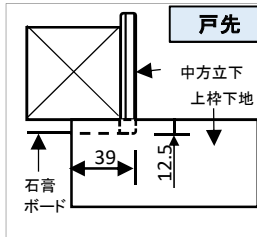
上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。その際に戸先側を中方立下地の表面から39mm壁にかぶるように取り付けを行ってください。
上枠下地の裏には上枠が垂れ下らないような厚みの木材を入れてください。



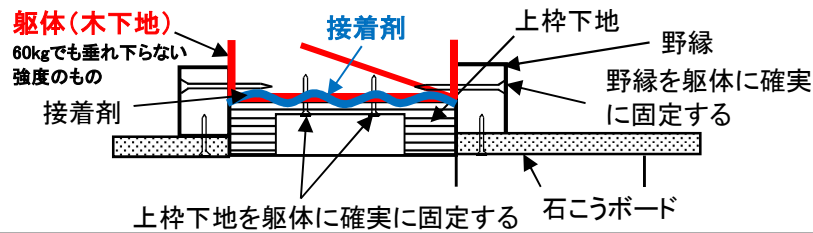
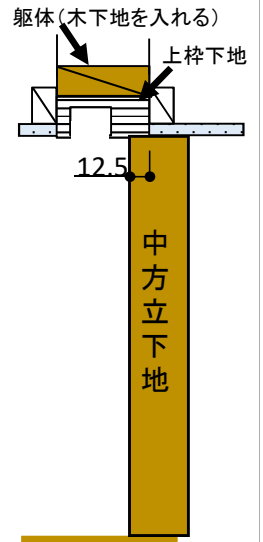
下地裏面に接着剤全面塗布



下地表よりビス固定



上枠下地取付位置
(中方立下地から39mm)



石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定
その後、野縁に石膏ボードを取付ける

上枠下地の裏側には上枠下地が垂れ下らないような厚みの木下地を入れる

中方立下地の取付け

中方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。(壁厚の真ん中に取り付けてください)



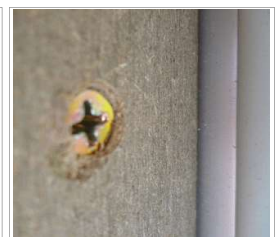
中方立下地裏面に接着剤
全面塗布(推奨：酢ビ系)



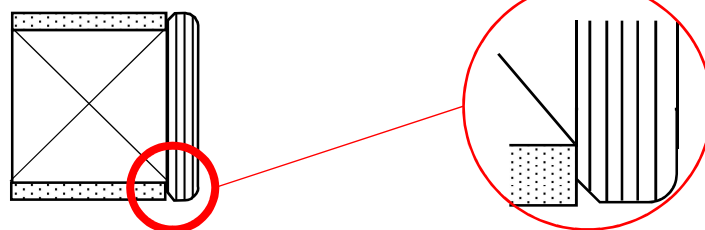
小壁を立てて
中方立下地を取付



調整ビス頭の飛び出し
×



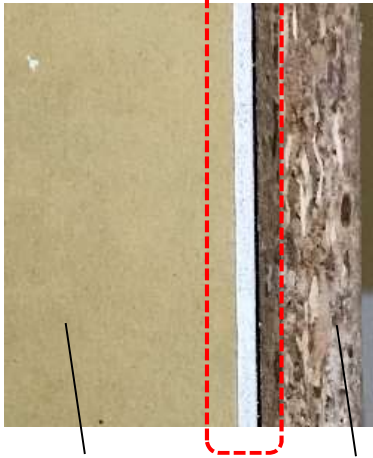
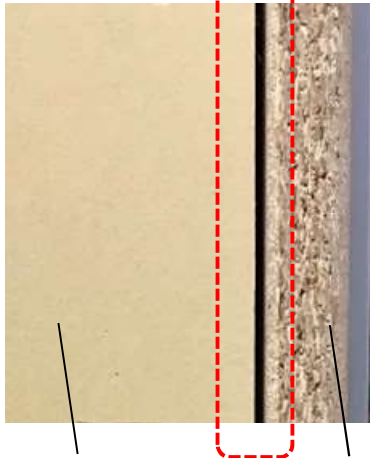
○

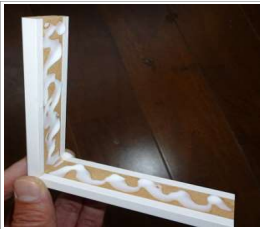
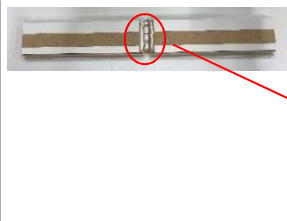
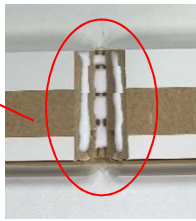


中方立下地は面取りされている側を石膏ボードと接合させる

- ボ** ※中方立下地は、床仕上げ面から上枠下地の下端までの長さです。
- イ** ※中方立下地材裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(酢ビ系をお奨めします)
- ン** ※下地枠の取付にはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス留めしてください。
- ト** ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

石膏ボード・シンプル幅木の取付 forステルス枠 施工手順書2021/9初版 2023/1改訂

石膏ボードの取付				
枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。 【注意事項】 クロスや塗り壁の仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。				
	石膏ボード 下地枠		石膏ボード 下地枠	
	枠と石膏ボードの隙間無し ○		枠と石膏ボードの隙間有り ×	
石膏ボードの面取有り ○		石膏ボードの面取無し ×		

シンプル幅木コーナー役物・取付け時の注意点				
枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、幅木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。				
	接着剤全面塗布 (推奨：酢ビ系)	【クロス貼り仕上の場合】 切欠寸法：7×30	【塗り壁仕上の場合】 切欠寸法：4×30	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付
				
	【注意事項】 幅木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。 ※塗布しないと割れ易くなります。			
ポイント	※出荷時には、シンプル幅木の切欠き加工がされています。 高さ30mm以上の幅木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。 ※厚さ7mmを超える幅木(現場手配品)には対応しておりません。			

クロス施工時の注意点 forステルス枠

施工手順書2021/9初版
 2023/1改訂

縦枠【袖壁納まりの場合】	
① 中方立下地と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。	中方立下地 石膏ボード — : パテ : メッシュテープ ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)
② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。	枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る 枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります
ポイント	※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。 ※中方立下地の木口面全体にパテを塗ってください。

上枠	
① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。 ※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。 上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。	天井高納まり 【天井ボード勝ち】標準納まり クロスよれ等を防ぐため、【天井ボード勝ち】納まりを標準設定としています。 天井高納まり 【上枠勝ち】の場合 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。 下がり壁納まり — : パテ .. : メッシュテープ
	①レール溝をまたいでクロスを貼る ②溝の中央にカッターで切れ目を入れる ③クロスを溝に巻き込む
ポイント	

上レールの取付

上レールの長手両側面にある養生フィルムを剥がしてください。



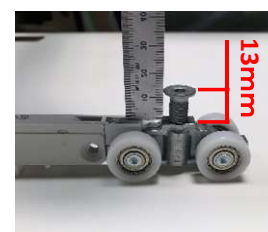
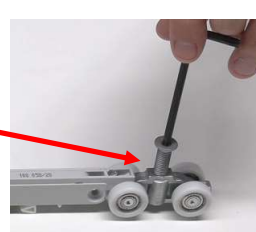
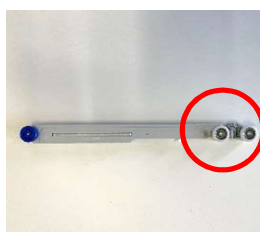
隙間シールを上レール内にある溝に差し込んでください。



※隙間シールはレール内側にビス穴加工がある側の溝へ、隙間シール断面の長い面が外側になるように注意して差し込んでください。

※隙間シールは別途、目隠しカバー取付の際にも使用しますので残りを捨てないでください。

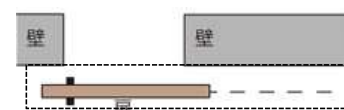
上ローラーにハンガーボルトを端部から**13mm出した位置**で取付けてください。
ハンガーボルトは同梱の六角（呼び4）で必ず手動で締め付けてください。



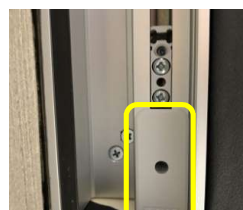
ダンパー本体（ローラー付き）とトリガーを取付けた上ストッパーをレール内部に右記写真の向き・順序で入れてください。
入れたら左右の上ストッパーをプラスチックドライバーで仮止めしてください。



上枠下地に上レールを木ネジ(4.8×63)で取付けてください。
取付ける際、**レールの向きに注意**して取付けてください。



レール両端にカバーキャップをはめこみ、十字穴付バインド小ねじ（M2.5×8）で取付けてください。



ストッパーとトリガーの固定

レール両端にあるストッパー及びトリガーをそれぞれ端に寄せ、プラスドライバーと六角（呼び2.5）で固定してください。



六角（呼び2.5）

ビス止め（2箇所）

カバーキャップにトリガー端部を合わせ

※ストッパーがレールと水平に固定されないと、トリガーがレール天井部に押し上げられない場合がありますので、**締め忘れに注意してください。**

※六角ねじを強く締めすぎるとストッパーが破損しますので、**締付トルクは、仮締めが1.5 N・m、本締めが2 N・mで固定してください。**

※ビス止め2箇所のビス頭がはみ出ないように注意してください。

ガラスブラケットの取付け

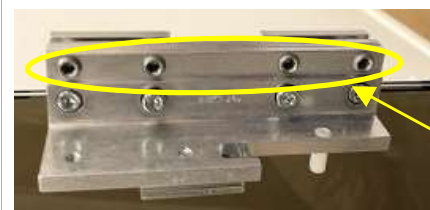
ガラス上部とガラスブラケットの溝部分を拭いて綺麗にしてください。掃除の後、ガラスブラケットのチャンネルを同梱のヘキサロピュラレンチ（T25）で一旦取り外す。（チャンネルは後に使うので保管しておく）



ガラス面やガラスブラケットの溝部分に異物がある状態でガラスブラケットを締め付けるとガラスが破損する場合がありますので、必ず清掃をしてください。

【仮締め】

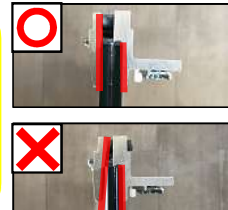
8箇所全てのねじを一旦大きく緩め、下図のブラケット取付位置と向きを確認し、**ガラスを均一に真っすぐ圧着するように押さえ**、先ず上側のねじ4箇所のみ同梱の六角（呼び4）で回し、軽く突き当たったところで止める。



【仮締め】

上側のねじ4箇所の締付はねじが軽く突き当たったところで止める。

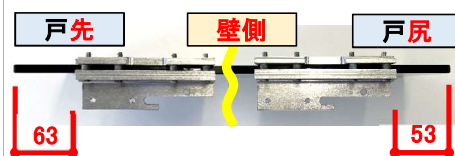
締め過ぎ厳禁



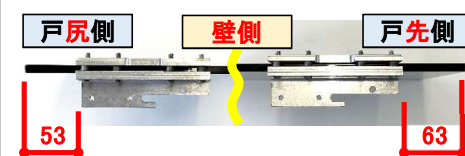
【ブラケットの位置と向き】

右図参照

L勝手の場合

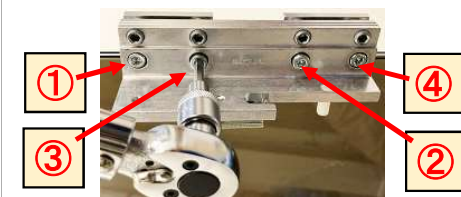


R勝手の場合



【本締め】

次に同梱のトルクレンチ（呼び4）を使い**7～8Nmの力**で下側のねじ4本を①～④の順に締め、次に上側のねじを締める。



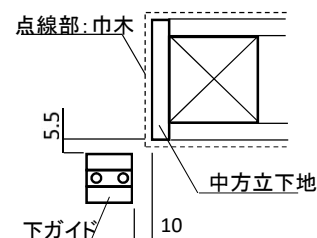
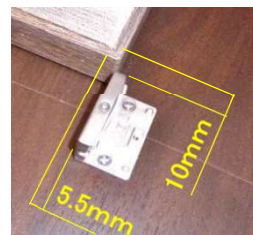
※ガラスブラケットは、ガラス端部から戸先側は63mm、戸尻側は53mmに取付けてください。

※下側のねじを本締めする時は、4本のねじを必ず①～④の順にトルクレンチ（呼び4）を使用して、7～8Nmで締めてください。

※下側のねじを本締めした後に上側のねじをトルクレンチ（呼び4）で7～8Nmで締めてください。

建具の吊り込み・下ガイドの取付け

下ガイドの部品を一度取外し、所定の位置に取付けてください。



ガラスブラケットの向きに注意して扉を吊り込む。

吊り込む際に、ガラスブラケットのくぼみにハンガーボルトが引っ掛かるように吊り込む。



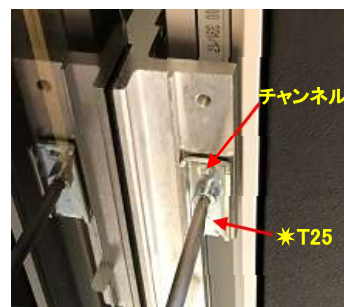
一度外した下ガイドの部品を戻して固定する。



跳ね上がり防止ネジ（白いネジ）を少し緩め（マイナスドライバー使用）、ハンガーボルトを締めて（付属六角[呼び4]使用）床とガラス戸のクリアランスを10mmにする。

一度外したチャンネルを取付け（付属ヘキサロビュードライバー[T25]使用）ハンガーボルトの頭を覆い、跳ね上がり防止ネジを締める。

※跳ね上がり防止ネジは締め過ぎないでください。



床とガラス戸のクリアランスは10mm確保してください。
クリアランスが小さいとガラスは破損の原因となります。

ガラスと下ガイドの隙間をプラスドライバーで調整する。

右回し：内側方向
左回し：外側方向



上ストッパーの調整

キャッチ調整ねじを十分緩めてから固定ねじを緩め、ストッパー位置を調整した後にねじを締める。

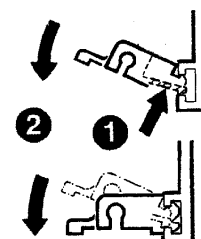
最後にキャッチ調整ねじでキャッチ力を調整する。



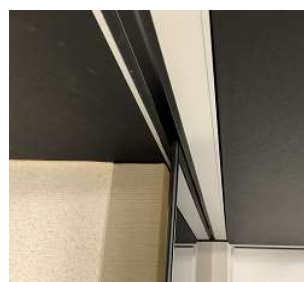
- ①キャッチ調整ねじを十分緩める
- ②固定ねじを緩める
- ③ストッパー位置を調整
- ④固定ねじを締める

目隠しカバーの取付け

上レールにクリップを約200mm間隔で取付ける。



目隠しカバーに隙間シールを取付けてから上レールのクリップに取付ける。



引手の取付け

引手取付部分を付属のガラスクリーナーで拭いてから、引手取付治具を合わせてマスキングテープで仮止めしてください。

※引手取付治具はFL仕上げからの治具です

※赤色の引手取付治具は使用しないでください

引手の両面テープ部の剥離紙を剥がし、引手を治具の切欠きに合わせて貼付けてください。

また、裏面も同様に引手を貼付けてください。

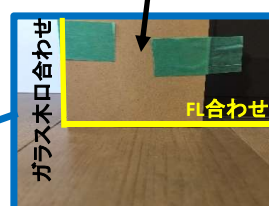
※両面テープを一度貼り付けると外せなくなる為、位置を間違わないように、またズレないように十分に注意して取付けて下さい。



付属のガラス



取付治具下部



剥離紙



※必ずガラスクリーナーでガラスを拭いてから引手を取付けてください。引手が外れる恐れがあります。